

# 「著作権教育」学習指導計画案

平成 18 年 11 月 10 日 尾崎 文雄

1 単元 著作物の大切さに気付こう

2 単元の目標

著作物の大切さに気付き、自分や他人の著作物を尊重する態度を養う。

3 題材 写された作文

4 題材について

「写された作文」は、授業中のできごとを題材にした児童にとって身近な内容である。花子さんの作文を許可をとらず、気付かれずにそのまま写した太郎君と、許可をとった後も花子さんへの気遣いからできるだけ自分で考える努力をした健二君の行動から話は始まる。翌日、書き上げた作文を健二君が読み終わったとき、花子さんは心が温かくなり、太郎君が読み終えたときには逆につらそうな表情を見せる。その時の3人の気持ちから著作物の大切さや許可を得ることの必要性に気付くように構成された題材である。

また、授業内容の理解を助けたり、思考を深めたりするために授業展開に合わせてデジタル教材とワークシートも合わせて用意した。

5 単元の指導計画（3時間扱い）

著作物の大切さに気付こう・・・・・・・・・・ 3時間（本時はその2時間目）

6 児童の実態について

5年生には「健二君の学級新聞づくり」を題材として1学期に1時間の著作権教育の授業をしている。友だちのイラストを使う時のことを通して、著作物を大切にすること、人の著作物を使うときは許可を得ることの重要性に気付き始めている。

7 本時の授業について







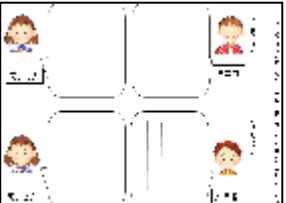
導入では、「海の学習」の後の行事作文を題材にしてあり、自分たちにも関わりのある話であることを認識させたい。

授業は、パワーポイントで作成したデジタル教材を示しながら、教師が読み物資料を音読して進めていく。そのとき、台詞が単調にならないように場面の様子に合わせて声の強弱やトーンに気をつけるように留意したい。デジタル教材の中には、花子さん、太郎君、健二くんの作文の一部を載せているが、花子さんのものをそのまま写している太郎君の作文と、自分で表現を考えた健二君の作文を見ながら違いを押しさえる。その時、花子さんのことを考え、写すことをやめた健二君の心情にもふれたい。




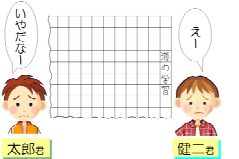

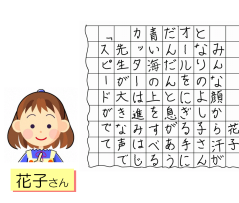


また、健二君、太郎君、花子さんの気持ちを予想させる場面ではワークシートに書き込ませることによって自分の考えを持てるようにする。

まとめでは、著作物を使うときには許可を得ること、著作物を大切に、相手への感謝の気持ちを持つことを押しさえたい。

目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太郎君と健二君に対する花子さんの気持ちを比べることで使う時には許可を得ることに気付く。</li> <li>・ 著作物の大切さとともに、相手への感謝の気持ちに気付く。</li> </ul>
--------	--

学習活動	主な発問と予想される反応	指導・援助の留意点
<p>1 導入 作文を書いた経験について尋ねる。</p> <p>2 展開 お話を聞く</p> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p style="background-color: yellow; display: inline-block;">写された作文</p>  </div> <div style="font-size: 2em; margin: 0 10px;">➔</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  </div> </div> <p>太郎君が花子さんの作文を写しているときの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>健二君が花子さんの作文を見ながら作文を書いているときの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>健二君と太郎くんが作文を読み終わった後の健二君と花子さん、太郎君と花子さんの気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>3 まとめ 授業のまとめをする。</p> <p style="margin-top: 20px;">ワークシートに大切だと思ったことや感想を書く。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>今までにどんな作文を書いた？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 運動会のこと</li> <li>・ 家族のこと</li> <li>・ 見学に行ったこと</li> <li>・ 読書感想文</li> </ul> </div> <p>花子さんの作文を写している太郎君の気持ちを考えてワークシートに書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花子さんはわからないからいい</li> <li>・ そのまま写してやるう</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>花子さんの作文を見て作文を書いた健二君の持ちをワークシートに書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花子さん頑張っているな</li> <li>・ できるだけ自分で書いてみよう</li> <li>・ 書くことが浮かんできたぞ</li> </ul> </div> <p>作文を読み終わった後の健二君と花子さんの気持ちをワークシートに書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ぼくもがんばったよ(健二)</li> <li>・ 私のこと大切に思ってくれた(花子)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>作文を読み終わった後の太郎君と花子さんの気持ちをワークシートに書きなさい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花子さんごめん(太郎)</li> <li>・ 勝手に写すなんてひどい(花子)</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>人の物を使うときに大切なことは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 許可を得る。</li> <li>・ 著作物を大切にすること。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>健二君はどうしてそのまま写さなかったのですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 花子さんへ気づかいをした。</li> <li>・ 感謝をした。</li> </ul> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>ワークシートに感想を書きなさい。</p> </div>	<p>・ 自分にとって身近な話題であることを知らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 太郎君や健二君の作文が花子さんと違う点や似ている点を押さえる。</li> <li>・ 読み聞かせた後、理解を図るため登場人物、場面設定を簡単に押さえる。</li> </ul> <p>・ ワークシートに記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 少しでも書けたらしっかりと誉める。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>・ ワークシートに記入させる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">  </div> <p>・ 勝手に写した場合と、許可を得た場合の違いから許可をとることの大切さを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健二君が花子さんの作文を大切に考えていたことを押さえる。</li> </ul> <p>・ 指名して発表させる</p>

## 「写された作文」場面細案

<p>写された作文</p>  <p>太郎 花子さん 健二君</p>	<p>いままでどんな作文を書いてきた?・・・子どもに経験を尋ねる</p> <p>今日は作文についてのお話です。登場人物は3人です。太郎君だけが泣き顔になっていますね。</p> <p>「写された作文」・・・題名を読む。クリック</p>
 <p>先生</p> <p>印象に残っていることや楽しかったことを作文に書きましょう。</p>	<p>二時間目、国語の授業が始まりました。一人一人に原稿用紙が配られた後、先生が言いました。</p> <p>「先週、一泊二日の海の学習に行きましたね。たくさんの思い出ができたと思います。この時間は、印象に残っていることや楽しかったことを作文に書きましょう。」クリック</p>
 <p>太郎 健二君</p> <p>いやだなー</p> <p>えー</p>	<p>「えー」「いやだなー」(やんちゃ坊主がいやそうに読む)同じ班の太郎君と健二君は目を見合わせて、小さな声で言いました。海の学習は二人にとって、楽しい思い出で一杯です。でも、作文になると話は別です。太郎君も健二君も作文や日記が大の苦手だったのです。</p> <p>まわりの友だちは、さっそく鉛筆を手にして書き始めています。それを横目にしながら時間だけが過ぎていきました。 クリック</p>
 <p>太郎 健二君</p> <p>いやだなー</p> <p>えー</p>	<p>太郎君と健二君の原稿用紙は真っ白なままです。</p> <p>(原稿用紙には何も書いていない)</p> <p>クリック</p>
 <p>花子さん</p>	<p>同じ班の花子さんも文章を書くことがあまり得意ではありません。</p> <p>クリック</p>
 <p>花子さん</p>	<p>でも、頑張り屋の花さんは何度も書いたり消したりしながら、海の学習の様子を思い出して、少しずつ原稿用紙に文章を書き込んでいました。</p> <p>クリック</p>
 <p>太郎</p>	<p>太郎君はあせりました。どんなことを書いていいのか浮かんでこなかったのです。</p> <p>クリック</p>
 <p>太郎 花子さん</p>	<p>隣の席の花子さんをのぞき込むと完成間近のようでした。</p> <p>「花子さんの作文を見せてもらおう」</p> <p>クリック</p>



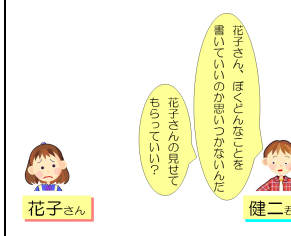
太郎君は見せてもらうだけと書いていたのですが、花子さんの作文をのぞいているうちに、ついそのまま写してしまいました。もちろん花子さんには何も言っていません。花子さんでも太郎君が写していることには気付いていません。

太郎君の原稿用紙のマス目はどんどん埋まっていきます。ところどころ出てくる友達の名前は変えましたが、あとは花子さんの作文とそっくりです。（自分の名前と友だちの名前が違うだけで後は、全く同じであることを押さえる） クリック



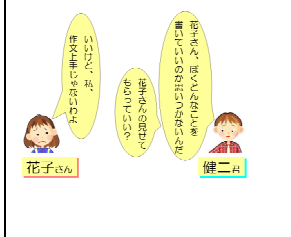
健二君は、そんな太郎君の様子を横目でちらちらと見ていました。自分も、花子さんの作文を写そうかと考えました。しばらくして、健二君は思い切って花子さんに話しかけました。

クリック



「花子さん、ぼくどんなことを書いていいのかわからないんだ。花子さんの見せてもらっていいかな。」(健二君になったつもりで読む)

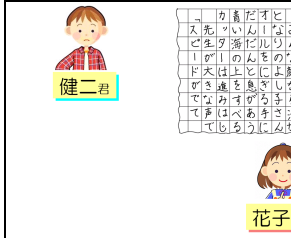
クリック



花子さんは少し驚きました。しばらく迷いましたが、真剣な顔で頼んでいる健二君を見て「いいけど、私、作文上手じゃないわよ」と答えました。

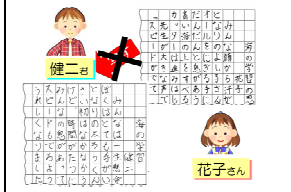
(花子さんになったつもりで読む)

クリック



最初、健二君は花子さんの作文を写そうと書いていました。でも、何度も書いたり消したりしながらがんばっていた花子さんのことを考えると、そのまま写すことはできません。それに花子さんの作文を見て書きたいことが少しわかってきたような気がしました。

クリック







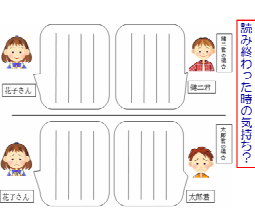
健二くんは、できるだけ表現の仕方を変えたり自分の気持ちを書いたりするようにしました。出来上がった作文は、健二君の素直な気持ちが現れていました。

(花子さんの作文と表現が全く違っていることを押さえる) クリック



翌日、国語の授業に一人ずつ作文を発表することになりました。黒板の前に立った健二君が最初に読みました。

クリック

 <p>健二君の作文の場面</p> <p>花子さん 健二君</p>	<p>読み終わった健二君は花子さんを見て「花子さんありがとう」(心をこめて読む)とにっこりとして言いました。花さんはなんだか心が温かくなりました。</p> <p>クリック</p>
 <p>太郎君の作文の場面</p> <p>花子さん 太郎君</p>	<p>太郎君の番になりました。なんだか顔色がさえません。いつもの元気な声でなく小さな声で作文を読み始めました。</p> <p>太郎君の作文を聞いていた花さんの目からみるみる涙があふれ、大きな泣き声が教室に響きました。(少し時間をおいて)クリック</p>
 <p>太郎君が花子さんの作文を写した場面</p> <p>太郎君 花子さん</p>	<p>「太郎君が花子さんの作文を写したときはどんな気持ちだったのでしょうか。ワークシートに書きなさい」</p> <p>記入後、発表させる。</p> <p>クリック</p>
 <p>健二君が花子さんの作文を見せた場面</p> <p>健二君 花子さん</p>	<p>「健二君が花子さんの作文を見せてもらいながら自分で考えて書いたときはどんな気持ちだったのでしょうか。ワークシートに書きなさい」</p> <p>記入後、発表させる。(写していいと許可を得ながらも花子さんの著作物を大切に思ったことに触れる)</p> <p>クリック</p>
 <p>感想を記入するカードの場面</p> <p>花子さん 健二君</p> <p>太郎君 花子さん</p>	<p>健二君が作文を読み終わったときの健二君と花子さんの気持ち、太郎君が作文を読み終わったときの太郎君と花子さんの気持ちをワークシートに書きなさい。</p> <p>(クラスの実態に応じて一組ずつ分けて記入させてもよい)</p> <p>記入後、発表させる</p>

感想を記入するカードを配り、

「授業の中で大切だと感じたことや、考えたことを書きなさい」と指示する。

児童が記入している間に期間巡視をして、特徴的な児童をつかんでおく。

児童から出た感想、板書をもとに次の3点を押さえていく

- ・ 人の著作物を使うときは許可を得る
- ・ 人の著作物に感謝する
- ・ ありがとうという気持ちを持つ